

(1) 13版 第33292号 (明治25年3月25日第3種郵便物認可・93和24年2月17日国鉄特別扱承認新聞第134号)

毎 日 乗 車

1975. 8. 28 毎日

# 核軍縮へ世界の頭脳

## きょう京都で開幕

パグウォッシュ・シンポジウム



湯川 秀樹氏



朝水 振一郎氏



ロートプラット教授



ヨーク教授

【京都】世界の著名な科学者、政治、経済学者たちが完全核軍縮、世界平和への道を探る国際会議「パグウォッシュ・シンポジウム」が二十八日から五日間の日程で京都市左京区家池の国立京都国際会館で開幕される。広島・長崎の被爆三十周年を迎えたにもかかわらず、核兵器体系はますます巨大化、核拡散問題も深刻化しているだけに、平和を訴える科学者たちの「目」がどんな完全核軍縮構想を生み出すか注目される。

「パグウォッシュ会議」が始まったのは一九五七年。米國がヒキニ水爆実験を行った翌年の一九五五年に、英國の哲学者バートランド・ラッセル卿と原爆の生みの親ともいわれる米國のアインシュタイン博士が核戦争と人類絶滅の危険を憂慮し「ラッセル・アインシュタイン宣言」として、核兵器と戦争の廃絶を訴えたのがきっかけ。カナダの小さな村・パグウォッシュで湯川秀樹、朝水振一郎博士らも参加して開かれた後、毎年規模の大きい「会議」と小規模の「シンポジウム」が交互に世界各國で開催されており今回は、第二十五回に当たり、日本では初の開催。

参加者は日本側から湯川、朝水氏をはじめ約十一人。外国側はラッセル・アインシュタイン宣言の最初の署名者十一人の一人のJ・ロートプラット・ロンドン大教授(放射線医学)、軍拡競争の告発者の立場をとり続けているH・ヨーク・カリフォルニア大教授(物理学)ら十七カ國、二國際団体が三十六人である。

C092-17-046